

令和元年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

伝統的な漁村文化の継承と活用をめざしたむらづくり

○集団等の名称 由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」（代表 齋藤 勝三）

○所 在 地 山形県鶴岡市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

由良地区は、山形県鶴岡市の海岸部に位置する漁村地帯であり、「東北の江の島」とも称される白山島を擁し、「日本の渚百選」と「快水浴場百選」に選ばれた由良海岸、蜂子皇子と八乙女伝説の奇岩・八乙女浦など、恵まれた自然景観を有している。主要産業は漁業で、由良漁港ではサケ、タラ、タイ等の水揚げがあり、漁獲量、生産額とも山形県全体の10%を占めている。

・むらづくり組織の概要

- ① 平成19年に地元漁業者等の若手有志で結成された「チームTARA」が中心となり、衰退した地域を再生すべく恵まれた地域資源を地域の内外に広く伝える取り組みを始めた。
- ② その後、自治会や観光協会、漁業団体に呼びかけ、都市住民との交流や魚食の普及、地域における漁村文化の継承など、具体的な活動により、由良地区の活性化と新たな地域づくりを図り、21年3月に由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」を設け、活動を本格化させた。
- ③ 漁協女性部由良支部の有志で結成した「ゆらまちっく海鮮レディース」は、魚食文化の伝承や商品開発、魚食普及を目的に活動している。

・むらづくりの取組概要

（１）漁業生産面

- ① 「由良港大漁祭」等の魚食イベントでは、魚介類の販売や宿泊客への魚介類提供による魚の消費拡大を図っている。また、これまで東北地方で注目されてこなかったトラフグやマフグ等の情報発信に取り組むほか、神経締めしたサワラをブランド化し、山形市や仙台市の近隣市場に加え、江東区豊洲市場への出荷を開始する等販路を広げている。
- ② 「ゆらまちっく海鮮レディース」は、商品価値が低い小鯛や小型のタコにスポットを当て、焼いた小鯛を乾燥させた地域伝統のだしやそのだしを練り込んだうどん、味を付けて煮たタコを乾燥させた商品等を開発・販売し、水産加工による所得の向上を図っている。

（２）生活・環境整備面

- ① 漁業・漁村への関心を高めるため、小中学生向けの漁業体験メニューを提供するとともに、由良港で行われている漁法や由良地区の伝統文化、記録等を映像化し次世代に継承する取り組みを行っている。
- ② 漁業者の減少に伴い存続が難しくなっていた白山神社の祭り「海中神輿」を活性化させるため、ウェブサイト等でPRし、現在では漁業者と住民を結びつける一大イベントとなっている。
- ③ 小中学生向けの体験メニューや海水浴シーズンを避けたイベント、海岸のゴミ拾いのスポーツ化等により、交流人口の拡大に取り組んだ結果、30年のツーリズム利用者は1,200人にまで拡大している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

伝統的な漁村文化を継承していくため、祭りの活性化や地域の催事等の映像化、女性を主体とした6次産業化等による漁業者の所得向上、都市農村交流活動等に取り組んでいる事例であり、今後の発展が大きく期待できる。
漁村としての地域の振興を目指し、協議会と地域住民が一体感を持って活動する取り組みは、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。